

地域住民とつくる在宅医療

～地域包括支援センターとしての拠点事業の活動～

秋田県

横手市地域包括支援センター











市立大森病院

行 キャッシュコーナー

ATM

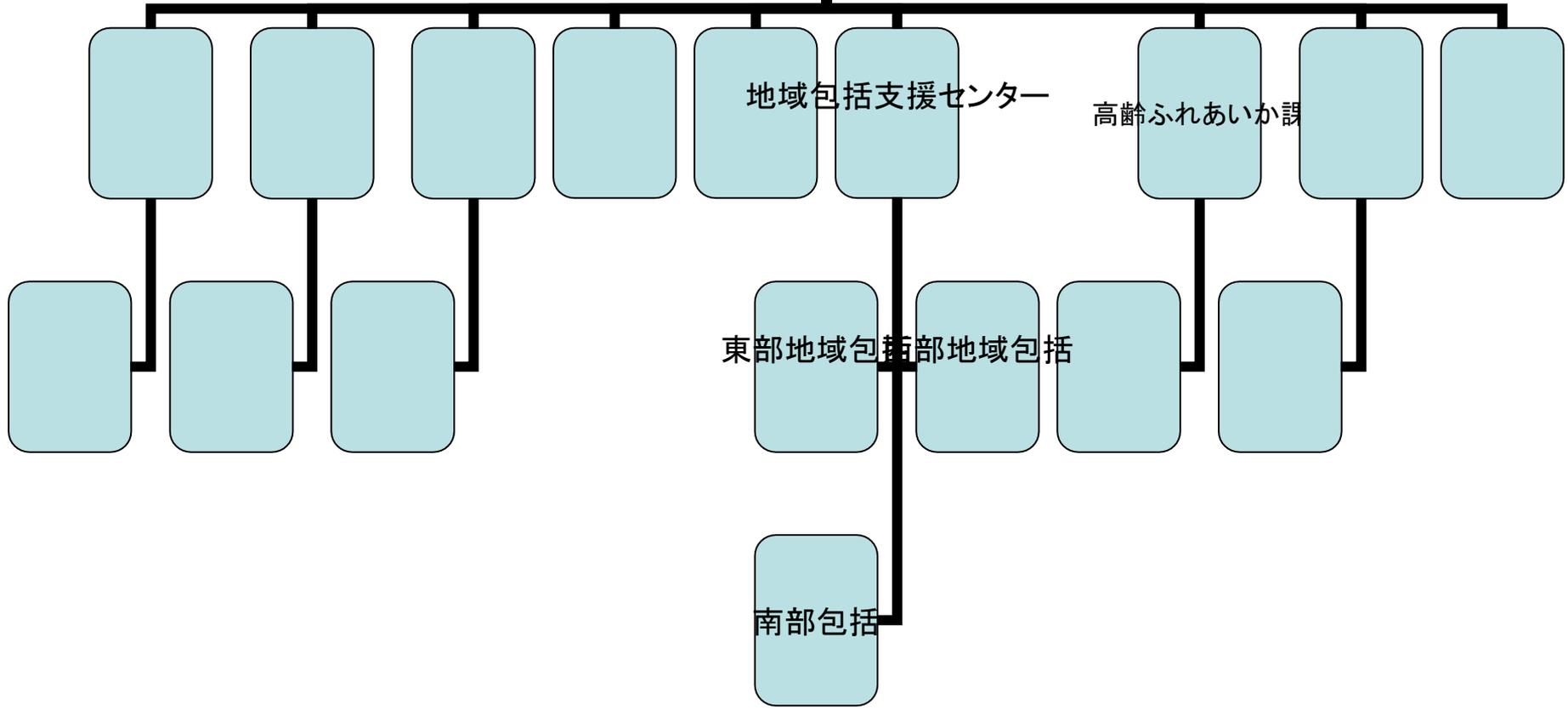


市立大森病院



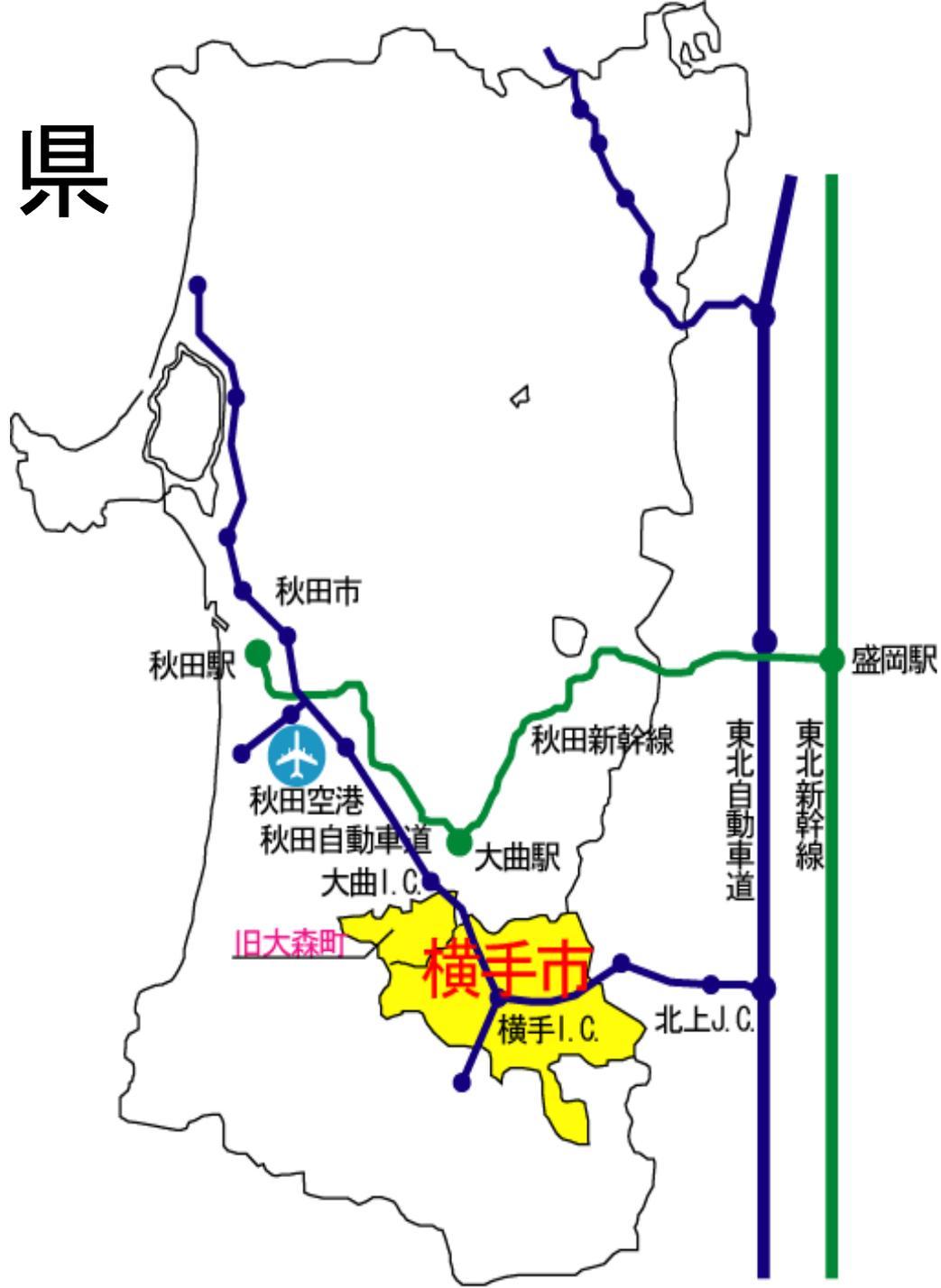


健康福祉部



はじめに

秋田県

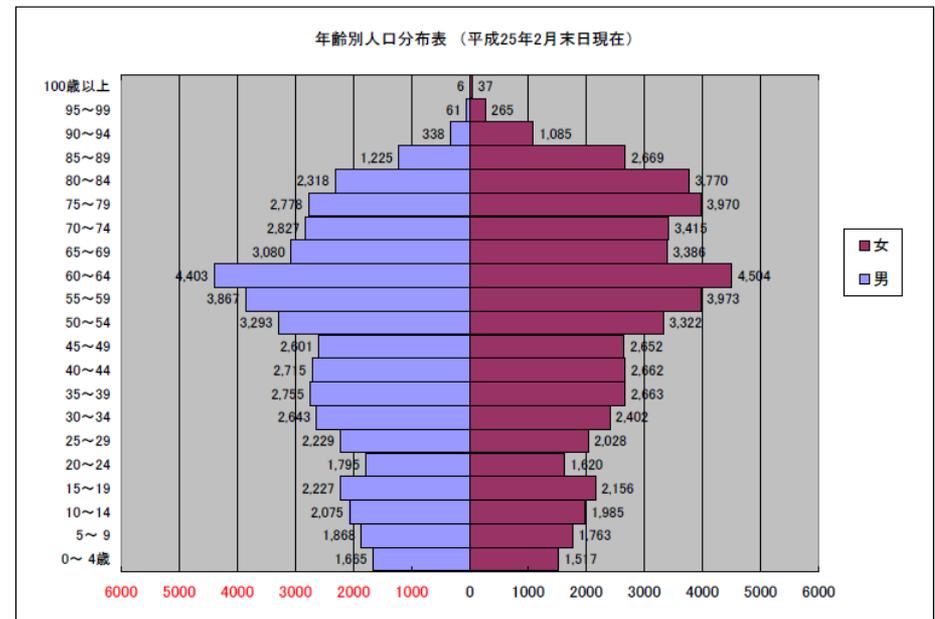


横手市のプロフィール

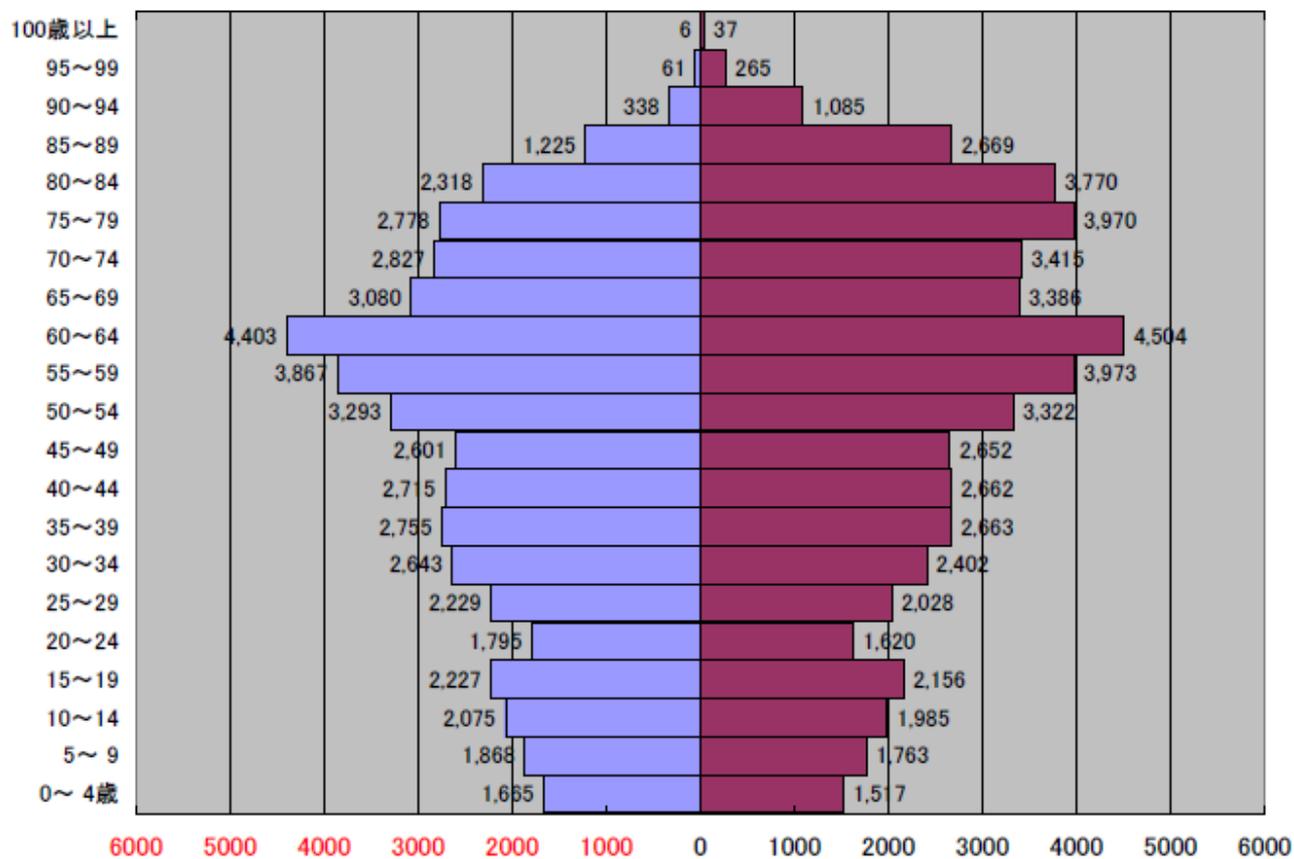
- ・総面積 693.6 km²
- ・人口 98,613人
(H25.2月末)

- ・高齢化率
65歳以上 31.67%
75歳以上 18.78%

- ・秋田県南部に位置する
超豪雪地帯
- ・平成17年10月
1市7町村が合併



年齢別人口分布表（平成25年2月末日現在）



地域特性

人口減少と高齢化がすすむ
超豪雪地帯

- ・総面積 693.6 km²
- ・人口 98,613人
(H25.2月末)
- ・高齢化率
65歳以上 31.67%
75歳以上 18.78%
- ・秋田県南部に位置する
超豪雪地帯
- ・平成17年10月
1市7町村が合併

三地域の特徴

西部地域

人口22,254
老年人口7,340
高齢化率
32.98%

大森町

大雄

雄物川町

平鹿町

十文字町

横手市

増田町

東部地域

人口41,758
老年人口12,617
（
高齢化率30.2%

山内地区
高齢化率
35.98%

山内

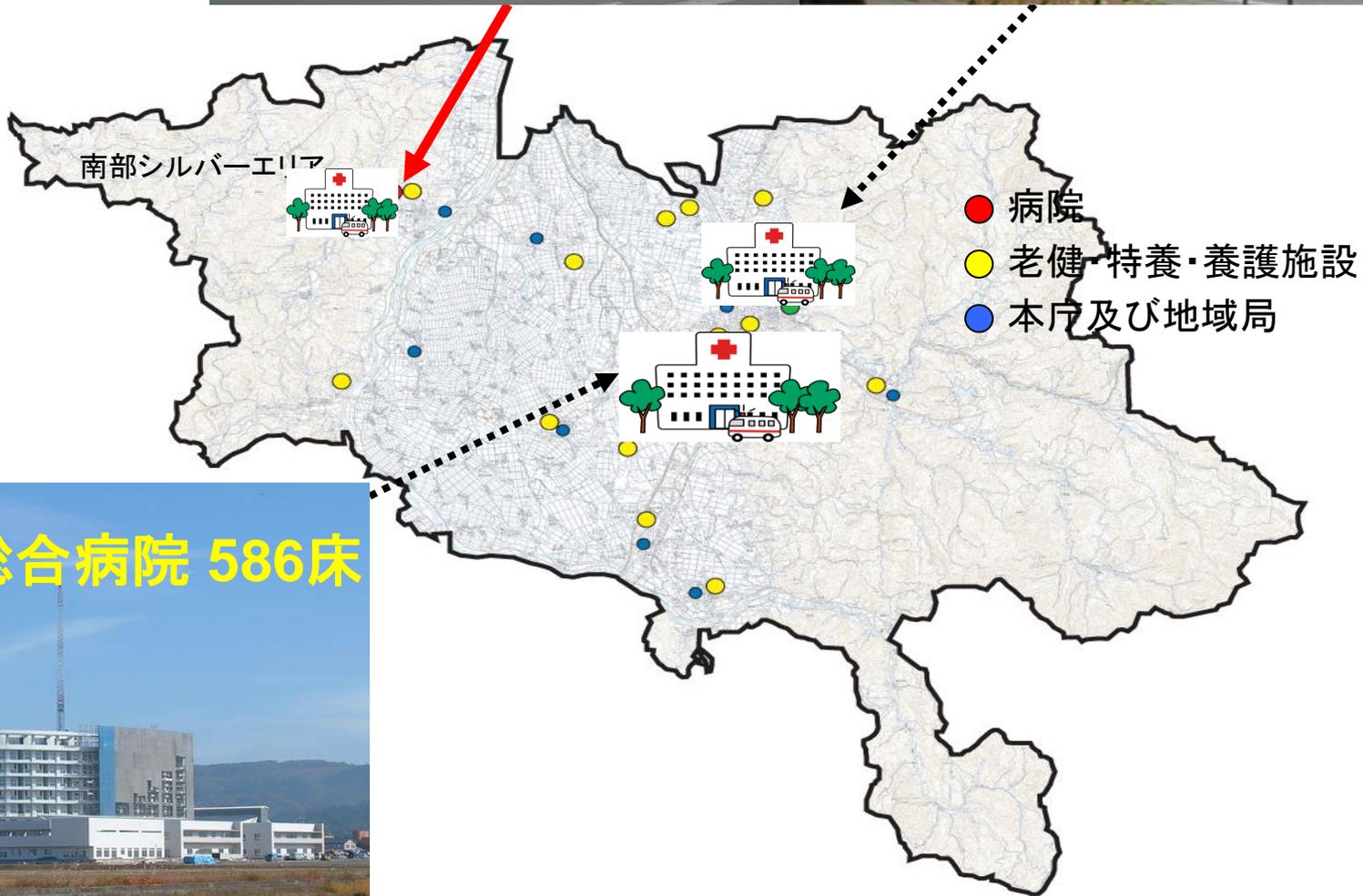
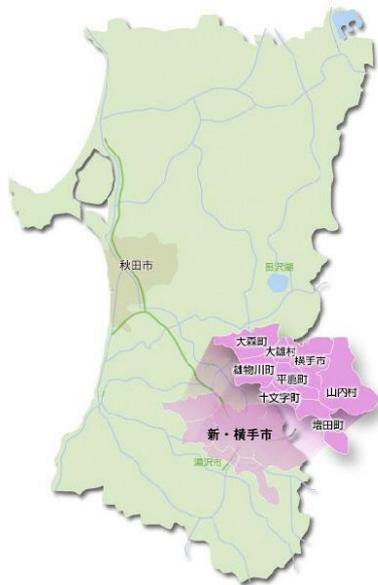
南部地域

人口34,815
老年人口11,132
高齢化率
31.97%



地域で今出来ていること

二次医療圏 の病院



西部地区の特性

合併前から市立大森病院を中心に健康の丘おおもりで地域包括ケア体制が確立している

横手市保健医療福祉総合施設 健康の丘 おおもり

グループ
ホーム

市立大森病院

介護老人保健施設
老健おおもり

生活支援
ハウス

秋田県南部
老人福祉総合エリア

特養特養護
老人ホーム 白寿園

保健福祉
センター

デイサービス
センター

健康の丘全体の
定員 約600名

東部地区の特性

急性期として2病院があるが、回復期病床がない。退院後のショートステイ利用が増加している

南部地区の特性

地域に病院がなく、開業医による往診や訪問診療が多い為、三地域の中で在宅看取り率がもっとも多い地域になっている。

これから行うべきこと

西部地区で行われている
「多職種連携」を全体に広げ
ていく

活動その1

フットワーク良く

訪問での対面型聞き取りを行い、実態を個別に丁寧に把握する活動を行いました

医療機関	41カ所(97.6%)
訪問看護ステーション	5カ所(100%)
居宅介護支援事業所	32カ所(96.9%)
介護施設等	58カ所(84.1%)
歯科診療所	41カ所(100%)
薬局	51カ所(94.4%)

計228カ所(95.5%)

多職種連携の課題に対する解決策の抽出

アンケート調査を対面型で聞き取り、 訪問型回収

・医療機関	41か所(97.6%)	} 228か所 (95.5%)
・訪問看護ステーション等	5か所(100%)	
・居宅介護支援事業所	32か所(96.9%)	
・介護施設等	58か所(84.1%)	
・歯科診療所	41か所(100%)	
・薬局	51か所(94.4%)	

活動その2

ネットワークを生かした

住民とのネットワークを生かした普及啓発

チラシ市内全戸配付

市報での特集記事掲載

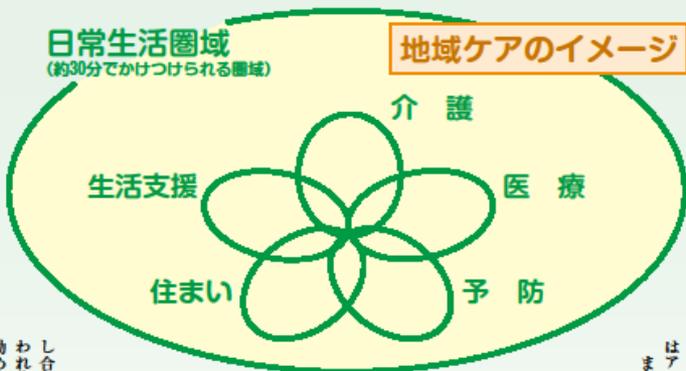
セミナー・シンポジウム開催

特集1 『自宅が最期まで過ごすために』

在宅医療連携拠点事業スタート

市では、一人ひとりが地域で安心していつまでも暮らすことのできるよう、地域ケア体制の構築を目標に、平成24年度から厚生労働省のモデル事業として『在宅医療連携拠点事業』に取り組んでいます。

住み慣れた自宅が最期まで過ごすために、この取り組みを紹介いたします。



「在宅医療連携拠点事業」
市が行っている在宅医療連携拠点事業は、国のモデル事業として、全国の105カ所で行われています。

市では、地域で在宅医療に携わってきた福井県名田庄村の中村伸一医師や高知県四万十市の小笠原望医師などを招き、関係者や住民に向けたシンポジウムなどを開催しています。

また、今年度から地域包括支援センター（西部）に在宅医療連携推進担当を配置し、多くの職種が連携を深めるため、医師会・歯科医師会の協力を得ながら「夕暮れ勉強会」を企画・開催するなどの取り組みを始めています。

「かかりつけ医の大切さ」
少し熱がある、お腹がちょっと痛いというようなときには、気軽に診てもらえる「かかりつけ医」はいるでしょうか。わずかな受診の段階で、診療してもらえる医師がいるといいのではないかと

「地域ケア体制の構築」
国では、施設中心の医療・介護から、可能な限り住み慣れた生活の場において、必要な医療・介護サービスを受けられ、安心して自分らしい生活を実現できる社会をめざすことにしています。

日本は、国民皆保険のもと、女性の平均寿命82歳（世界1位）、男性80歳（同4位）を実現するなど、世界でも類を見ない高水準の医療・介護制度を確立しています。しかし、平均入院期間はアメリカの5倍、ドイツの3倍です。

また、自宅での死亡する人の割合は、昭和25年頃は約80%で、病院で亡くなる人は10%程度でした。それが、昭和51年頃に逆転し、今では約80%の方が病院で亡くなり、自宅で亡くなる人は12%にまで低下しています。高齢者などが住み慣れた場所で安心して過ごすためには、どういったことが必要

結果に大きな違いが出る可能性があります。かかりつけ医がいる人は、普段とは違う体調のとき、念のため診てもらいたいと思います。かかりつけ医はこれまで診療経過、本人の仕事や家庭環境などさまざまな情報を蓄積しています。それらを受診時の症状と照らし合わせ、重大な病気の初期症状が疑われる場合は、精密検査を受けるよう勧められます。

かかりつけ医を持つことで、一般的に次のようなメリットが考えられます。

- ① 初期にわたって、一貫してひとりの医師に診てもらうため、病状が苦にならない。比較的近くにあるので、通院がしやすい。
- ② 患者の性格や病歴などを総合的に把握しているため、的確な診断につながる。
- ③ 待ち時間が少ないため、病気の身に負担が少ない。
- ④ 健康へのアドバイスや精神面のケアも期待できる。
- ⑤ 診療所によっては、時間外の診察や往診に対応してくれる。

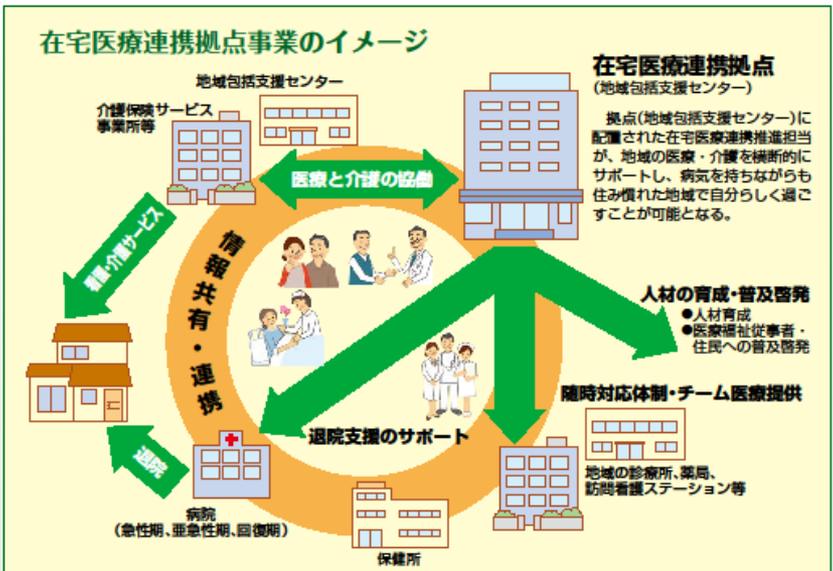
在宅で最期まで過ごすために、一人ひとりがかかりつけ医を持ち、自分の体調や健康に関する情報を、日頃から関係者に共有してもらうことが重要と言えないでしょうか。そしてそれが病院での、いわゆるコンビニ受診を減らし、勤務医の過重労働の軽減につながる、ひいては地域医療の充実にもつながっていきます。

になるのでしょうか。

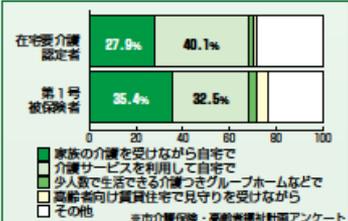
たとえば順繰りなどを発生し、病院での入院生活を終えて自宅で療養するためには、いろいろな職種の人、周囲の支援が必要で、介護のみならず、保健や福祉、医療などに携わる多くの人々が連携することにより、その人の在宅での暮らしを支えていきます。

関係する多くの職種の連携、民生児童委員や社会福祉協議会の福祉協力員などの地域の協力者、隣近所や親類など日頃から親しくしている人たちの精神的なサポートなどが包括に行われ、在宅で療養する人を支え、それが地域ケア体制（国では「地域包括ケア体制」という）です。

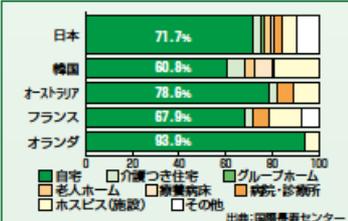
地域ケア体制とは、①医療との連携強化、②介護サービスの充実強化、③予防の推進、④見守り・配食・買い物などの多様な生活支援サービスの確保や権利擁護の推進、⑤高齢期になっても住み続けることのできる住まいの整備、などを推進しながら構築される仕組みをいいます。



■あなたは今後、どのように介護してほしいと思いますか？



■あなたは最期の時間をどこで迎えたいですか？



かかりつけ医はお持ちですか？



「かかりつけ医」とは！

日常の診察だけでなく、健康や生活面など、何でも相談できるお医者さんのことです。



「かかりつけ医」の

ススメ

「かかりつけ医」を持つとこんなメリットがあります

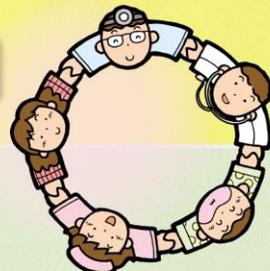
- 病気や健康状態を総合的に相談できます。
- 精密検査や入院が必要なときは、適切な病院や専門医を紹介してくれます。
- 介護保険を利用するための介護認定の際、主治医の意見書が必要になりますが、日頃の心身の状態を把握しているのでスムーズに作成してくれます。
- イザと言うときには往診してもらえます。

「かかりつけ医」を選ぶポイント

- ① 気兼ねなく話しやすい
- ② 家から近く、連絡しやすい
- ③ 親切によく説明してくれる



医療の分野では地域の「かかりつけ医」と「病院」がそれぞれ役割を持ちながら、患者さんを診ていく「医療連携」という形が主流になっています。



「かかりつけ医」をもちましょう

今は健康に心配のない方でも、将来の健康を守るため「かかりつけ医」を持っておくとう安心です。

お問い合わせ先 **横手市地域包括支援センター 在宅医療連携担当**
 電話 35-2135 Fax 56-4026 横手市大森町字菅生田245-206

からだが不自由で通院ができない方へ 訪問診療をご存じですか？



訪問診療とは？

病気や障がいがあっても、住み慣れた家で過ごしたいという方が、自宅に専任の医師を招くことが出来る仕組みです。



●「往診」と「訪問診療」の違いは
 緊急時の訪問 → 往診
 定期的な訪問 → 訪問診療 となります



訪問診療を利用するまでの流れ



ご本人、ご家族、ケアマネジャー、訪問看護ステーション、ヘルパー等、どなたからでも診療所に、あるいは入院中の方であれば相談室に、自宅療養中であれば担当ケアマネジャーか介護職員にご相談下さい。

訪問診療・往診を行っている病院、医院

医療機関名	所在地	電話番号	医療機関名	所在地	電話番号
平瀬総合病院	新橋字八ツノ3-1	92-8121	聖徳クリニック	平瀬町新橋字石成5-1	25-3090
市立病院	相模町5-31	92-6001	西条病院	平瀬町西条字橋本6-3	24-1028
赤松病院	大森5-25	92-0128	山崎病院	平瀬町赤松字橋本205-1	24-1008
石田病院	西町11-11	93-1233	山崎病院分院	平瀬町赤松字橋本192-1	24-1181
藤倉病院	西町2-9	92-2183	聖徳内科循環器クリニック	十文字町仁井田字鹿37-2	42-2239
相模が原病院	平瀬町3-34	93-9311	高野病院	十文字町仁井田字鹿5-5	42-0421
計生会病院	平瀬町7-8	92-9481	井田内院	十文字町中津屋下121-4	42-0068
新子病院	新川町13-31	96-2222	下田内院	相模町新川字石成6-2	46-8800
高橋内科医院	赤田字ツツ子町0-45	92-9852	徳島総合病院	相模町新川字石成49-1	45-2383
成古病院	相模町三丁目1-45	93-9021	市立大森病院	大森町菅生田245-206	26-2141
おぎのり内科クリニック	角島一丁目15-2	23-8301	新野病院	大森町菅生田字鹿7-2	56-4111
相模が原病院分院	角島三丁目2-10	96-7020	相模病院	大森町菅生田字鹿4-3	62-3108
ケンブリック内科・泌尿科	新子町字大森町158-1	96-2235	佐々木眼科	相模町相模字菅生田189-1	22-5657
五郎病院	相模町大森字菅生田28	93-7533	相模川クリニック	相模町相模字菅生田44-1	92-5511
相模川クリニック	相模町大森76-3	98-2711	山内病院	山内町菅生田字鹿43-1	63-2211
山口内科	赤田中野字新小川155-29	96-6050			
小田地区診療所	相模町大森174	96-8851			

このチラシは厚生労働省モデル事業「在宅医療連携拠点事業」により作成されました。

行政広報・HPの活用

- 信頼度が高い
- 安心して情報を受け取ることができる
- 幅広い年齢層に宣伝できる
- 市民の声を反映できる

12月1日号の『自宅で最後まで過ごすために』の特集を読んで、一言が心に残りました。『生まれ方は選べませんが、死に方は選べるかもしれません。』人間には、覚悟を決めることが必要な時があることを勉強しました。（55歳）

活動その3

チームワーク形成

夕暮れ勉強会の風景



効率的な医療提供の多職種連携

医師会、歯科医師会との報告・連絡・相談
夕暮れ勉強会、地域ケア会議
ネットワーク会議、地域ケア推進会議



在宅医療従事者の負担軽減の支援

講演型だけでなく、ワークショップ、グループワークを実施

⇒現状・課題の共有、目標共有

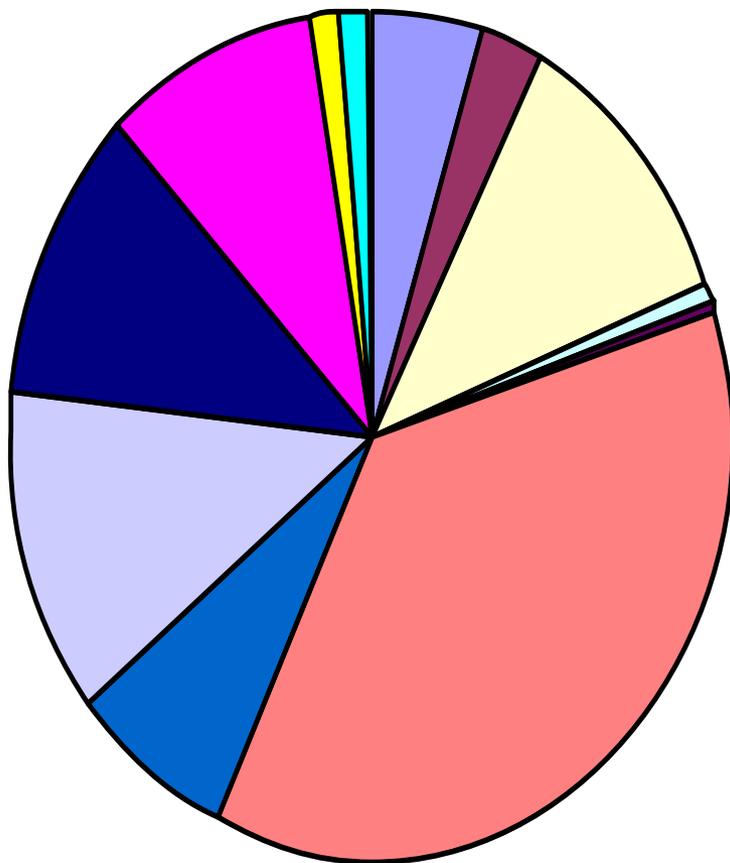


6/23 最期まで在宅生活
支援あり方ワークショップ



1/10施設における看取り勉強会

夕暮れ勉強会参加職種



- 医師
- 歯科医師
- 看護師
- 理学療法士
- 作業療法士
- ケアマネジャー
- 保健師
- 介護
- 事務
- その他
- 精神保健福祉士
- msw

成果1

- ◎顔の見える関係づくりスタート
- ◎事業への理解と協力関係構築
- ◎課題の抽出と共有

成果2

- ◎住民への在宅医療普及啓発
- ◎現状と課題の共有
- ◎様々な機関との連携

成果3

◎連携によるチーム立ち上げ

◎相乗効果

◎目標共有

今後

平成25年度の取り組み

- ☆行政・・・地域医療連携推進事業の継続
具体的な地域医療連携体制の構築
- ☆医師会・歯科医師会・・・多職種連携強化
夕暮れ勉強会の継続
- ☆事業所等・・・研修会を通じて連携強化、目標共有
- ☆住民・・・出前講座、訪問型支援、講演会の開催

横手市がめざす5年
後そして10年後

横手市地域包括ケア体制の実現

医療(在宅医療)

- ・ 往診、訪問診療
- ・ 緊急時対応
- ・ 訪問看護、訪問リハの充実等

介護

施設サービス

在宅サービス

予防

生活習慣病予防

介護予防等

市民

(利用者視点)

生活支援

住まい

課題

共有ツール

まとめ